

基本情報

科目分類	専門科目	開講年次	3・4年
時間割コード	3J105	開講区分	後期
開講科目名	特別講義国際著作権法（JASRAC寄附講義）	曜日・時限等	金3（ハイブリッド（対面））
成績入力担当	島並 良	単位数	2.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	

[担当教員一覧](#)

詳細情報

■授業のテーマ

著作権制度の国際的側面（歴史、各国法、条約、紛争解決等）

■授業の到達目標

上記テーマについて、知識と理解を得ること。また、それを通じて、AI時代にふさわしい著作権制度の将来像を考えること。

■授業の概要と計画

学内教員（島並）と学外のゲストスピーカーが、次の内容を講義する（島並は全回出席予定）。なお、各授業はこの順に実施されるとは限らず、確定日程は初回の授業（10月2日）において通知する（各授業の内容は独立である）。

1. 総説：著作権制度の概要と国際性（島並良）
2. 歴史：形成期（島並良）
3. 歴史：展開期（島並良）
4. 各国法：イギリス（今村哲也・明治大）
5. 各国法：アメリカ（前田健・東京大）
6. 各国法：フランス（長塚真琴・一橋大）
7. 各国法：ドイツ（横山久芳・大阪大）
8. 各国法：韓国（張睿暎・獨協大）
9. 各国法：中国（謝德堃・神戸大）
10. 国際的課題：ルールメイキング条約・EU法（湊麻依子・神奈川大）
11. 国際的課題：著作者人格権（鈴木敬史・南山大）
12. 国際的課題：著作隣接権（本山雅弘・国土舘大）
13. 国際的課題：国際民事訴訟一準拠法選択・国際裁判管轄（羽賀由利子・成蹊大）
14. 国際的課題：オンライン海賊版対策（高野慧太・中京大）
15. まとめと展望―著作権制度の明日（島並良）

■成績評価方法

平常点：20%

期末レポート：80%

■成績評価基準

平常点は、授業への出席と参加度によって判断する。

期末レポートは、授業の到達目標を達成できたかどうかにより評価する。

■履修上の注意（関連科目情報）
最初の授業において、日本の著作権制度の概要を説明するので、知的財産法について履修／学修済みであることは必要ではない。
■事前・事後学修
事前学修は特に必要ない。事後には、授業内容を復習するほか、授業で紹介・推奨された文献があればそれを読むこと。
■学生へのメッセージ
この授業は、日本音楽著作権協会（JASRAC）様からのご寄附に基づき、期間限定で実施されます。著作権制度の国際的な課題と将来像に関心のある皆さん、参加をお待ちしています。
■教科書
指定しない。
■参考書・参考資料等
前提となる日本の著作権制度について学ぶための参考書として： 著作権法入門（第4版） / 島並良・上野達弘・横山久芳：有斐閣，2024年，ISBN:978-4-641-24381-1
■授業における使用言語
日本語
■キーワード
著作権法 国際著作権法
■参考URL

担当教員一覧

教員	所属
島並 良	法学研究科

基本情報

科目分類	大学院科目	開講年次	3 年
時間割コード	3J885	開講区分	後期
開講科目名	生成AIと法（JASRAC寄付講義）	曜日・時限等	他(対面)
成績入力担当	法学研究科	単位数	2.0
授業形態	講義	ナンバリングコード	

担当教員一覧

詳細情報

■授業のテーマ

生成AIがもたらす法的課題について理解し、著作権法、個人情報保護法、特許法、民法等の関連法規について基礎的な知識を身に着ける。

■授業の到達目標

生成AIの関わる事案について、適切に法的論点を発見し法律を当てはめる能力を身につける。

■授業の概要と計画

次の予定で、いずれもスライドを用いて講義する。実施形態は原則対面とする。担当教員はいずれも弁護士であり、企業法務やAI関連法務に関する豊富な実務経験を有している。各回の講義では、企業における生成AIの利活用に関する実務的な観点を踏まえた解説を行う。

第1回 イントロダクション - そもそも生成AIって何？

生成AIの基本的な仕組みを平易に解説したうえで、この授業で扱う法的課題の全体像を示す。

第2回 生成AIと著作権 - 学習は合法か、生成物はパクリか

AIが大量の著作物を学習することが著作権法30条の4でどこまで許されるかを検討する。AI生成物が既存作品に似ている場合の侵害判断や依拠性の問題についても検討する。また、AIが生成した絵や文章に著作権が発生するかを考える。人間の関与がどの程度あれば「創作」といえるか、プロンプトの工夫で著作者になれるかという問題を検討する。

第3回 生成AIと特許法・不正競争防止法

AIが生み出した発明は特許をとれるのか、プロンプトや学習データは営業秘密として保護されるのかを検討する。AI関連発明の特許適格性や不正競争防止法上の論点を概説する。

第4回 生成AIとエンタメ（山城）

声優の声や俳優の顔をAIが利用する場合のパブリシティ権・肖像権の問題を検討する。AIによる声のクローンやディープフェイクなど具体的な事例を素材に、現行法での保護の可能性と限界を考える。あわせて、音楽・映像・ゲーム等のエンタテインメント領域における生成AIの活用事例と、それに伴う法的課題を概観する。

第5回 生成AIと個人情報保護・プライバシー（杉浦）

学習データに含まれる個人情報の取扱いを中心に、個人情報保護法の基本的な枠組みとAI特有の問題を解説する。EUのGDPR（一般データ保護規則）との比較や、個人情報とプライバシーの違いについても触れる。

第6回 生成AIと生成AIと機密情報、個人データ利活用（杉浦）

不正競争防止法上の営業秘密や第三者から受領した秘密情報を生成AIに入力する場合の問題点を解説する。ビジネスの現場で行われているAIを用いた個人データ利活用の例についても解説する。

第7回 AIエージェントと民法 - AIが勝手に契約したらどうなる？（杉浦）

AIエージェントとはなにか、AIエージェントを用いた契約について代理や錯誤といった民法の制度が適用されるかを検討する。その他、AIエージェントをめぐる法的問題についても解説する。

第8回 AIで事故が起きたら誰の責任？ - 不法行為・製造物責任

自動運転やAI医療など、AI起因の事故における責任の所在を考える。不法行為法や製造物責任法の基本的な枠組みを確認したうえで、AIの場合に過失や因果関係をどう認定するかを検討する。

第9回 AI規制の国際比較 - EU AI規則を中心に

EU AI規則のリスクベースアプローチを中心に、世界各国のAI規制の動向を概観する。米国・中国のアプローチと比較しながら、日本がソフトロー中心の戦略をとっている理由と課題を考える。

第10回 フェイクニュースと民主主義 - AIと表現の自由

生成AIによるフェイクニュースやディープフェイク政治広告が民主主義に与える影響を考える。表現の自由とのバランスをどうとるか、プラットフォーム規制や偽情報対策立法の動向を検討する。

第11回 ゲスト講師回（テーマ調整中）

実務家または研究者をゲスト講師として招き、最新の実務課題や研究動向について講義・ディスカッションを行う。

第12回 企業はAIとどう付き合うか - AI利用ポリシーとガバナンス

企業における生成AI利用ガイドラインの策定や社内規程の設計について解説する。取締役のAIガバナンス責任や、AI倫理とコンプライアンスの関係を事例を交えて考える。

第13回 弁護士・法務部はAIをどう使っているか - リーガルテックの最前線

法律事務所や企業法務におけるAI活用の実態を紹介する。AIによる契約書レビューやリサーチの可能性と限界、弁護士倫理上の問題を考える。

第14回 総合演習 - 生成AIの法的問題を分析する

具体的な生成AIの利用場面を題材としたケーススタディに取り組む。著作権、個人情報保護、契約、不法行為等の複数の法分野にまたがる問題について、これまでの授業で学んだ知識を総合的に適用して分析する。あわせて期末レポートの課題説明を行う。

第15回 総括 - 生成AIと法の未来

全体の振り返りと論点整理を行う。

■成績評価方法

期末レポート(100%)

■成績評価基準

期末レポートの成績は、授業の到達目標を達成できたかどうかにより評価する。具体的には、生成AIに関する法的論点を的確に把握し、関連する法令や判例を踏まえた分析ができているかを評価する。

■履修上の注意（関連科目情報）

特になし。

■事前・事後学修

事前学修：事前に配布する資料を読むこと。

事後学修：授業中に言及した裁判例や資料を読むこと。

なお、本学では1単位あたりの学修時間を45時間としています。毎回の授業にあわせて事前学修・事後学修を行うこと。

■学生へのメッセージ

生成AIは今まさに法律が追いつこうとしている分野です。法学部生、法科大学院生、大学院生のいずれも歓迎します。

■教科書

指定しない。

■参考書・参考資料等

[AIと法 実務大全 / 柿沼太一・杉浦健二：日本加除出版, 2024, ISBN:978-4-8178-5015-7](#)

■授業における使用言語

日本語

■キーワード

生成AI 著作権法 個人情報保護法 AI規制 パブリシティ権 不法行為 契約 実務経験教員

■参考URL

担当教員一覧

教員	所属
法学研究科	法学研究科